# イントロダクション

**・全商簿記試験の概要**

公益財団法人全国商業高等学校協会主催の簿記実務検定試験（以下、「全商簿記」と略します）の概要は以下のとおりです。

①　試験時間：１時間30分

②　合格点：70点以上（満点100点）

③　試験日：１月、６月

（注）詳しくは公益財団法人全国商業高等学校協会へお問い合わせ下さい。

**・学習の仕方**

授業を受けていただき、授業の内容を理解することが大切です。授業を受けた後も、理解できるまでテキストを繰り返し読んで下さい。

また、簿記は授業を聴くだけでは身につきません。必ず、実際に自分で手を動かして問題を解くようにして下さい。まずは、テキストの例題を解けるようにして下さい。

授業の内容を理解しているかを確認するために、章ごとに自己学習用教材として、問題を用意していますので、試験当日までこれらの問題を繰り返し解いて、簿記力を高めて下さい。

一度、全商簿記の試験範囲を学習し、ある程度理解ができている方は、試験対策から学習して、理解不足等がある分野について、個別に学習するといった使い方が効率的だと思います。

**・重要性について**

各論点ごとに「Ａ・Ｂ・Ｃ」のランク付けをしていますが、それぞれの意味は以下となります。

Ａ：試験に頻出している論点なので、必ずマスターすべき論点です。

Ｂ：最近の試験ではほとんど出題されていない論点ですが、それほど難易度が高くないため、時間がある方はマスターしてほしい論点です。

Ｃ：最近の試験ではほとんど出題されていない論点で、かつ、難易度も高い論点なので、ＡとＢの論点をマスターした方で、なお、時間がある方のみ学習すれば良い論点です。

# 第１章　簿記の基礎①

## １－１　簿記の意義

**【重要性：A】**

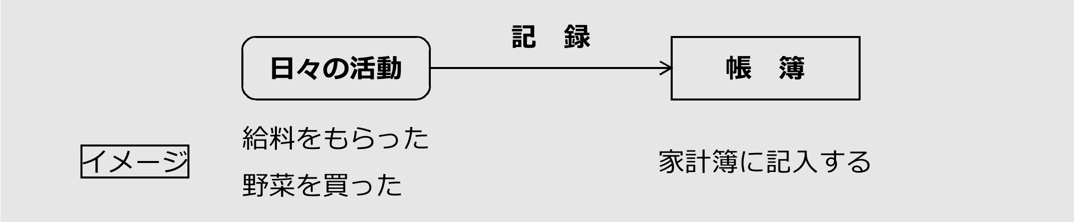
**ＰＯＩＮＴ！**

**①　簿記とはどのようなことをするのか、イメージできるようにしよう！**

**②　２つの報告書を覚えよう！**

### （1）簿記とは？

お店や会社は日々の経営活動を記録・計算し、どのくらい儲かったのかや、どのくらいの財産があるのかを明らかにする必要があります。この日々の経営活動を記録する手続きを、**簿記**といいます。簿記とは「帳簿記入」を略した言葉といわれますが、お店や会社の日々の経営活動を、**帳簿**という書類（ノートをイメージして下さい）に記録（記入）します。




お店や会社の日々の経営活動を帳簿に記入することによって、お店や会社がいくら儲けたのか（これを**経営成績**といいます）、現金や商品、土地などの財産がいくらあるのか（これを**財政状態**といいます）を明らかにし、経営者や出資者、銀行、国（税務署）といった関係者に報告書を作成して報告します。

### （２）報告書の種類

簿記で用いる報告書は**財務諸表**（ざいむしょひょう）といい、様々な種類がありますが、全商簿記３級で出題されるのは損益計算書（そんえきけいさんしょ）と貸借対照表（たいしゃくたいしょうひょう）です。

**損益計算書**とは、会社や個人商店（こじんしょうてん）がどれくらい儲（もう）かったのかという**経営成績**を表す報告書です。一般に英語で、Profit and Loss Statement といいますので、**P/L（ピーエル）**と略します。

**貸借対照表**とは、会社や個人商店が、現金や商品、土地といったものをどれくらい持っているのか、銀行からどれくらいお金を借りているのかといった**財政状態**を表す報告書です。一般に英語で、Balance Sheet といいますので、**B/S（ビーエス）**と略します。

以下に、損益計算書と貸借対照表のイメージを記載しました。具体的な内容はこれから学習していきます。

**貸 借 対 照 表**

<table>
<tr><td rowspan="2">資　産</td><td>負　債</td></tr>
<tr><td>純資産</td></tr>
</table>

**損 益 計 算 書**

<table>
<tr><td>費　用</td><td rowspan="2">収　益</td></tr>
<tr><td>（利　益）</td></tr>
</table>

### （３）簿記の対象

簿記は、会社、個人商店、自治体（じちたい）など様々な主体を対象に行われますが、全商簿記３級では、主に**個人商店**を前提とした簿記が出題されます。したがって、これからは株式会社（かぶしきがいしゃ）などの会社形態ではない、お店を営んでいる個人をイメージして学習して下さい。

# １－２　簿記の５要素

**【重要性：A】**

**ＰＯＩＮＴ！**

**①　簿記の５要素を覚えよう！**

**②　簿記上の取引を理解しよう！**

## （1）簿記の５要素

簿記は日々の経営活動（これを**取引**といいます）を帳簿へ記入しますが、**財政状態**を表す要素として**資産**、**負債**、**純資産**、**経営成績**を表す要素として**収益**、**費用**の５つの要素に分類して処理します。これを**簿記の５要素**といいます。

① 資産

**資産**とは、商売に役立つものをいいます（**プラスの財産**とイメージして下さい）。具体的には、現金、預金、商品、建物、備品、土地などが該当します。

② 負債

**負債**とは、支払う義務があるものをいいます（**マイナスの財産**とイメージして下さい）。具体的には、借入金、未払金などが該当します。

③ 純資産

**純資産**とは、資産から負債を差し引いたもの（**資産－負債＝純資産**）です（プラスの財産である資産からマイナスの財産である負債を差し引いた**純額の財産**とイメージして下さい）。また、純資産は商売を始める時にはじめに用意したお金（これを**元手**といいます）と商売で儲けたお金（これを**利益**といいます）から構成されます。

**貸 借 対 照 表**

<table>
<tr><td rowspan="2">資　産</td><td>負　債</td></tr>
<tr><td>純資産</td></tr>
</table>

④　収益

**収益**とは、商品を販売した売上など、財産を増やす原因であり、商売によって獲得した成果です。具体的には、売上、受取利息、受取家賃、受取手数料などが該当します。このように、収益は「受取」という言葉が付く場合が多いです。

⑤　費用

**費用**とは、商品を購入（仕入といいます）した金額や人件費、広告料など、財産を減らす原因であり、収益を獲得するためにかかった犠牲です。具体的には、仕入、給　料、広告料、支払利息、支払手数料、通信費、水道光熱費などが該当します。このように、費用は「支払」や「費」という言葉が付く場合が多いです。

**損 益 計 算 書**

| | |
|---|---|
| **費　用** | **収　益** |
| （利　益） | |

（注）利益は収益と費用の差額であり、簿記の５要素ではありません。

### （2）簿記上の取引

簿記は日々の経営活動（**取引**）を帳簿に記入しますが、帳簿へ記入すべき取引は簿記の５要素である**資産・負債・純資産・収益・費用を増減させる取引**です。これを**簿記上の取引**といいます。一般に用いる「取引」という言葉と意味内容が異なる場合があるので注意して下さい。

例えば、不動産賃貸契約を取り交わした場合、一般には取引という言葉を用いるかもしれませんが、簿記では、契約の段階では簿記の５要素が増減していませんので、簿記上の取引とはなりません。実際に賃貸期間が開始し、賃料を支払った時に簿記の５要素が増減するため、簿記上の取引となります。